



花崎北小学校だより

学校教育目標「かしこく やさしく たくましく」

令和5年度

5月号

児童数253名

「待つ」

校長 藤井 真仁

近年、以前に比べると「『待つ』時間」や「『待つ』ことへの負担感や不安感」がかなり減ったように感じます。

例えば、レストランやレジャー施設など、予約システム等の充実により、効率的に時間を使えるようになりました。先週の日曜日の朝にインターネットで注文した電化製品が、その日の18時過ぎに届いた時は宅配サービスの充実ぶりに驚かされました。

以前は、友人と待ち合わせをするのにもかなり気を遣いました。携帯電話が普及する前は、外出すると連絡を取り合う手段がないため、人と待ち合わせるときには「本当に会えるかな」と不安に思ったものです。しかし、今は「〇時に、◆駅の北口で」と大まかに決めておくだけで心配はありません。遅れる時も「●分遅れます」とスマホにメッセージが入れば、待つ方の不安も減ります。(一方で、会える前のドキドキ感はかなり減りました。)

さて、学校生活においては、「待つ」場面を目にすることがたくさんあります。

その1つが、先日の登校風景です。

学校までの道のりや大きなランドセルに慣れていない1年生は、どうしても歩く速度がゆっくりになってしまいます。班長さんは、時々立ち止まって1年生が来るのを待っていたり、後ろを振り返ったりしながら1年生の歩く速度に合わせていました。班長としての責任ある行動は、素晴らしかったです。

2つ目は、休み時間の外遊びです。

ブランコや滑り台など、遊具で遊ぶときには順番を守らなければいけません。先日も1、2年生がブランコの前に列をつくっていました。その時、2年生が「1人10回ね」と言って「いーち、にーい、さーん... じゅう。交代。」と、声をかけてくれていました。この時の2年生の姿はとても頼もしかったです。そして、指示に素直に従い、「待つ」ことができた1年生は立派でした。

3つ目は、授業です。

子どもたちが周りのお友達を「待つ」こともあります。先生が子どもたちを「待つ」ことが多くあります。例えば、個人で試行錯誤する場面やグループでの話し合い活動です。この時間を十分に取ることで、思考力や表現力が高まり、知識・技能を自分のものにすることができます。限られた時間の中ですが、時にはじっくり「待つ」ことも大切なことです。

私たち教職員は、子どもたち一人一人を確実に伸ばすため、時には待ち、時にはスピード感をもって、日々の教育活動に粘り強く取り組んでまいります。

